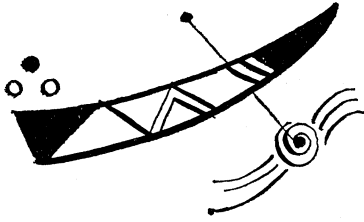


## 欧文誌アブストラクト



### ■ A Historical Study of Typewriters and Typing Methods: from the Position of Planning Japanese Parallels

山田 尚勇 (東京大学)

Vol. 2, No. 4 (1980)

エレクトロニクスの最近の進歩は手頃な費用で効率のよい日本語の処理が近い将来に可能となることを示している。処理過程の中で未解決なのは入力方法である。見通しのきく限りでは手動きのキーボードが成長の見込まれる唯一の入力法であり、各種のキーボードがいろいろなコンピュータの支援法とともに現在研究されたり実用されたりしている。しかし、他の多くの技術分野で起ったように、これらの内の限られた少数だけが時の試練に耐えて残ることになろう。

本論文は欧米のタイプライタの歴史の中で何が起ったかを細かくとどろき、その時代のひとびとが見落した盲点やおとし穴を指摘することにより、上述の試練の期間を短縮しようとの試みである。少なくともそうした情報は、研究開発の中で見過してはならない潜在的問題点を見つけ出す能力をわれわれに与えてくれることと考える。そのため、タイプライタが受け入れられるに必要な基本的性能、タイプ法についてひとびとがはじめに知らなかったこと、その結果としてキーボードの設計にあたってなされた誤った判断、それが今日まで残している悪影響、などを指摘する。

### ■ Combination of Two Discrete Fourier Transforms of Data Sampled Separately at Different Rates

小林 康浩 (鳥取大学)

井上 倫夫 (鳥取大学)

Vol. 2, No. 4 (1980)

本報告は、パワースペクトル分析に当って、サンプリングや量子化の処理スピードがそれほど早くないた

めに低周波と高周波の混同 (エイリアシング) が生ずるようなデータ集録装置しか利用できないとき、その周波数分解能を上げたいという要求に応えるための一手法について述べている。

ここでは、原始記録 (データ) を2台の異なる装置を用いて、同時にそれぞれ  $T/2N$ ,  $T/2(N+n)$  秒の時間間隔でサンプリングし、得られた2組の時系列データ [それぞれ  $2N$  個と  $2(N+n)$  個のサンプル値からなる。ただし  $1 \leq n < N$ ] ごとに離散フーリエ変換 (DFT) する。各時系列のフーリエ係数 (値は次数が同じでも相異なる) を次数の順に並べると、それらは、それぞれ  $N$  項と  $(N+n)$  項ごとに折り返えり、一方は  $2nN \pm r$  番目、他方は  $2m(N+n) \pm r$  番目のフーリエ係数が重なり合って見える。この関係をうまく利用すると、2組の離散フーリエ係数同志の簡単な算術演算により、入力データに含まれている周波数成分を識別できる。識別可能最高周波数は、 $(2N-1)/T$  [Hz] で、これは、1種類の時系列データを分析して得られる値のほぼ2倍に相当する。

興味ある点は、本方法により求めたフーリエ係数を用いて方形波を再合成するとき、ギブス現象として知られている不連続点におけるオーバーシュートをなくすることができることである。

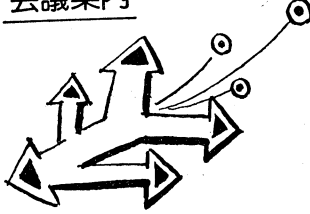
### ■ Specifying Software System with High Internal Concurrency Based on Actor Formalism

米澤 明憲 (東京工業大学)

Vol. 2, No. 4 (1980)

アクタ形式にもとづいた並列プロセス・並列計算に対する仕様技法を与える。アクタ (プロセスまたはモジュール) の状態という概念とイベントの間の半順序関係を用いることが技法の中心的な着想である。この手法は互いに交信する並列モジュールの個々の挙動を記述するのに強力であるばかりでなく、OS のようなそのサブシステムの並列動作によって特徴づけられるソフトウェアシステムの挙動を仕様・検証するのに強力でもある。この技法の応用として、付録に現存するある OS の記述が与えられる。さらに個々のモジュール/プロセスの状態を数学的な関数として定義する方法が示唆される。

## 会議案内



### 《国際会議》

会議名 SEARCC '80 (第3回東南アジア計算機会議)

開催期日 1980年10月21日～24日

開催場所 ジャカルタ (インドネシア)

#### トピックス

Management and National Issues in Data Processing

Computer Application in Developing Countries Technical & Scientific Issues

問合せ先 SEARCC '80 Conference Implementation Committee

P. O. BOX 4487

Jakarta, Indonesia

論文申込は昨年末となっていますが、参加希望者は情報処理学会事務局へ正式の“Call for Papers”を請求ください。

### 《国内》

会議名 第1回生体システムシンポジウム

開催期日 1980年12月1日、2日

開催場所 名古屋大学 (予定)

主催 計測自動制御学会

企画 生体システム調査研究委員会、中部支部生体システム部会、サイバネティクス部会

#### 講演申込締切

9月25日 (木) (講演時間最長30分)

原稿締切 10月25日 (土)

発表料 2ページ3,000円, 4ページ6,000円, 6ページ (別刷料)

参加費 2,000円 (論文集一冊を含む, 登壇者も参加料必要)

#### 申込・問合せ先

(社)計測自動制御学会 Tel. 03 (501) 7671

会議名 第22回プログラミング・シンポジウム

開催期日 1981年1月12～14日

開催場所 箱根彫刻の森ホテル

研究発表申込および要旨送付締切 1980年8月末日

参加申込 11月に案内予定

#### 記

- (1) 研究者・学者・メーカ・ユーザなどの人々の共通の討論の場である。
- (2) 学術論文の発表の場ではない。
- (3) 未完成なものであっても、プログラミングの将来に大きな影響を与えそうなホットな話題が歓迎される。
- (4) シンポジウムというものの本来の意味のとおり、積極的な質問を受け、また討論に参加する心構えが必要である。
- (5) 数値計算およびこれに関連するテーマは取り上げない。

#### 申込み・問合せ先

慶応工学会内 プログラミング・シンポジウム委員会

〒160 東京都新宿区新宿 3-17-7 (紀伊国屋ビル6階)

Tel. 03 (352) 3609

会議名 昭和55年度電気関係学会東北支部連合大会

開催期日 1980年8月28日～30日

開催場所 東北大学工学部

募集要領 講演者は主催学会会員に限る。講演時間は1件15分以内とする。

講演内容 一般講演 各専門分野で最近行った研究の発表

技術報告 各専門分野で最近行った工事報告, 現場実験報告, 新製品の紹介等, 特に, 現場に直結した実験研究の発表

#### 申込方法

- (1) 「講演申込書」は申出により「原稿用紙1,600字」「原稿の書き方」と共に差上げます。郵送希望の場合は1部140円(2部以上の場合は1部増すごとに60円増)の郵送料を添えて下さい。
- (2) 発表者は講演申込と同時に、必ず、講演申込金として1件につき2,500円を添えて申込み下さい(論文集代, 別刷50部代を含む)。

申込・原稿締切日 1980年7月7日(月)

論文集 発表者には事前に送付します。その他購入希望者は所要部数を早めに申込み下さい。  
(1部2,000円, 郵送希望の場合は郵送料1部200円)

申込先 電気関係学会東北支部連合事務局  
〒980 仙台市荒巻字青葉 東北大学工学部

電気系学科内

問合せ先 電気関係学会東北支部連合事務局  
Tel. 0222 (22) 1800 (内線 4312) 石曾根, 青野

共催 電子通信学会・電気学会・日本音響学会・照明学会・テレビジョン学会・情報処理学会各東北支部



相磯 秀夫 (正会員)

昭和7年生。昭和32年慶応義塾大学大学院修士課程(電気工学専攻)修了。大阪大学工学部助手を経て、工業技術院電気試験所(現、電子技術総合研究所)に入所、昭和46年慶応義塾大学工学部電気工学教室教授。計算機アーキテクチャ、マイクロコンピュータ、マイクロプログラミングなどの研究に従事。工学博士。電子通信学会、IEEE、ACM 各会員。



石井 治 (正会員)

昭和4年生。昭和27年慶応義塾大学工学部電気工学科卒業。同年電気通信省電気通信研究所入所。昭和34年工業技術院電気試験所に移り、現在電子技術総合研究所ソフトウェア部長、工学博士。研究歴としてははじめの頃フェライトなどの磁性材料、部品、その後各種のメモリデバイス、メモリシステム、計算機のハードウェアシステム、アーキテクチャなどのことに従事した。電気学会、電子通信学会、日本応用磁気学会、IEEE などの各会員。



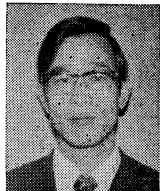
新井 克彦 (正会員)

昭和10年生。昭和33年東京大学理学部数学科卒業。同年日本電信電話公社電気通信研究所に入所。MUSASINO-1のプログラム、料金計算用計算機CM-100のソフトウェア、PL/Iコンパイラ、DIPS-1OSの研究実用化に従事。現在、同公社横須賀電気通信研究所データ通信研究部データ通信方式研究室長。電子通信学会会員。



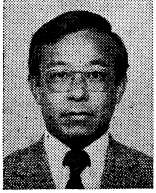
高木 明啓

昭和21年生。昭和44年東京大学工学部航空学科卒業。同46年同大学院修士課程修了。同年日本電信電話公社電気通信研究所入所。以来、DIPS-1OS、仮想計算機、分散処理方式等に関する研究実用化に従事。昭和52年から1年間、MIT コンピュータ・サイエンス研究所客員研究員。現在、横須賀電気通信研究所研究専門調査員。ACM 会員。



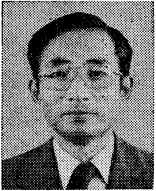
大表 良一

昭和19年生。昭和41年北海道大学工学部電子工学科卒業。同年工業技術院電気試験所(現電子技術総合研究所)入所。現在同所電子計算機部記憶システム研究室勤務。磁性線メモリ、磁気バブルメモリなどの記憶装置の研究に従事。電子通信学会会員。



長島 重夫

昭和21年生。昭和43年東京大学工学部電気工学科卒業。昭和45年同大学大学院電子工学科修士課程修了。同年(株)日立製作所中央研究所に入所。以来、大型計算機の開発、オペレーティング・システムの開発、評価に従事。電子通信学会会員。



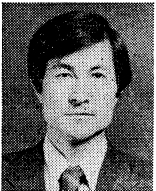
堀越 彌 (正会員)

昭和15年生。昭和37年東京大学工学部応用物理学科卒業。昭和39年同大学大学院応用物理学科修士課程修了。同年(株)日立製作所中央研究所に入所。以来、大型計算機システムの開発、ならびにオペレーティング・システムの研究に従事。電子通信学会、IEEE 各会員。



加藤 隆二

昭和9年生。昭和33年3月京都大学工学部電子工学科卒業。同年日本電気(株)入社。コンピュータ中央処理装置、主記憶装置の設計、コンピュータ用電子回路の設計、大規模集積回路の開発、LSI 化実装技術の開発等に従事。現在コンピュータ技術本部回路技術部長。電子通信学会会員。



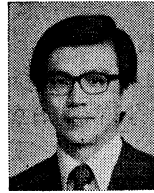
伊藤陽之助 (正会員)

昭和9年生。昭和32年早稲田大学第1理工学部電気工学科卒業。同年日本電信電話公社入社。電気通信研究所において、電子交換用記憶装置・論理回路パッケージ、電子番号案内用端末システム、磁気ディスク記憶装置、超大容量記憶装置などの開発に従事。現在、武蔵野電気通信研究所ファイル記憶研究室長。電子通信学会、日本応用磁気学会各会員。



武井 欣二 (正会員)

昭和10年生。昭和36年京都大学工学部電子工学科卒業。同年東京芝浦電気(株)入社。昭和49年より日電東芝情報システム(株)に転出。この間、主として計算機方式設計、計算機製品計画などに従事。現在は計算機技術動向調査を主な仕事としている。



益田 隆司 (正会員)

昭和14年生。昭和38年東京大学工学部応用物理学科卒業。昭和40年同修士課程修了。同年(株)日立製作所入社。中央研究所勤務。昭和48年同システム開発研究所勤務。昭和52年筑波大学講師(電子・情報工学系)。昭和53年助教授。現在に至る。工学博士。オペレーティング・システムの研究開発、計算機システムの性能評価の研究に従事。現在、データベース・システムにも興味を持っている。昭和47年、49年、51年度情報処理学会論文賞受賞。電子通信学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、ACM、IEEE 各会員。



小美濃友夫 (正会員)

昭和22年生。昭和45年東京電機大学工学部一部電子工学科卒業。同年日本電子計算(株)入社。以来、主としてオンラインシステム関係のシステムソフトウェアのサポートに従事。現在同社オンライン開発室に勤務。計算機アーキテクチャ、ソフトウェア工学などに興味を持っている。電子通信学会会員。



村田 健郎 (正会員)

大正12年生。昭和20年東京大学工学部(航原)卒業。昭和26年東京大学理学部(数学)卒業。昭和28年～34年東京大学工学部講師(真空管計算機TACに従事)。昭和35年(株)日立製作所に入社。昭和35～49年の間は、HITAC 5020、工業技術院大型プロジェクト「超高性能電子計算機」、HITAC 8800のハードウェア開発に従事。その後、興味を数値計算に移す。本学会論文賞(昭和52年)受賞。現在、日立中央研究所技師長。理学博士。現在興味を持っているテーマは、ナビア・ストークス系など、非構造分野への有限要素法の応用、特に仮想メモリ方式計算機向けアルゴリズム。



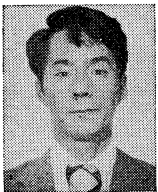
二村 良彦 (正会員)

昭和17年生。昭和40年北海道大学理学部数学科卒業。同年(株)日立製作所中央研究所入所。現在は同所第八部主任研究員。昭和40年より、LISP、コンパイラ・コンパイラ、部分計算法、漢字入力装置、銀行端末、ソフトウェア工学等の研究開発に従事。昭和47年頃から「プログラムの作成法」に、特に興味を持っている。著書:「LISP とその応用」(産業図書, 共著), 昭和45年電子通信学会より米沢賞受賞, ハーバード大 MS (応用数学), ACM, 電子通信学会各会員。



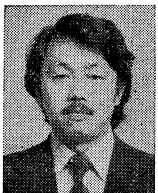
門間 三尚

昭和16年生。昭和40年東京大学工学部計数工学科卒業。同年(株)日立製作所入社。以来、アプリケーションプログラムの作成、オンラインシステムの建設などに従事。情報処理振興事業協会に2年間出向。現在ソフトウェア工場技術計算センタ技師。計測自動制御学会会員。



三橋 鏡雄 (正会員)

昭和20年生。昭和44年早稲田大学理工学部工業経営学科卒業。同年富士通ファコム(株)に入社。言語処理プログラムの研究開発に従事。現在、富士通(株)ソフトウェア事業部 LP 部勤務, FORTRAN コンパイラの研究開発に従事。



庄野 英二

昭和23年生。昭和46年明治大学工学部電気工学科卒業。同年富士通(株)に入社。言語処理プログラムの研究開発に従事。現在、富士通(株)防衛機器本部防衛システム開発部勤務, 対潜システムの開発に従事。



坂 和磨 (正会員)

昭和13年生。昭和36年東京大学工学部電気工学科卒業。同年三菱電機(株)に入社。現在三菱電機計算機製作所ソフトウェア製造部次長。



前田 幸介 (正会員)

昭和19年生。昭和42年大阪大学工学部電子工学科卒業。同年三菱電機(株)入社。以来、計算機製作所にて、オペレーティング・システムの開発に従事。現在に至る。



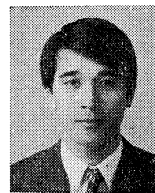
加藤 文夫 (正会員)

昭和22年生。昭和44年岩手大学工学部電気工学科卒業。昭和46年同大学院修士課程修了。同年三菱電機(株)入社。計算機製作所にてオペレーティング・システムの開発に従事。現在に至る。



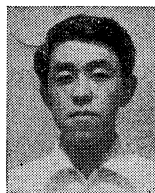
山本 公一 (正会員)

昭和6年生。昭和24年淀川工業高等学校卒業。昭和25年電気通信省(現日本電信電話公社)入社。昭和31年日本電信電話公社中央学園高等部技術科卒業。以来、空間分割、時分割、遠隔制御の各電子交換機のハードウェア、ソフトウェアの研究実用化に従事し、更に、中小局用電子交換機、構内用電子交換機、移動体通信用電子交換機の実用化を行う。現在は(株)日立製作所戸塚工場勤務。工学博士。電子通信学会会員。



山口 喜教 (正会員)

昭和24年生。昭和47年東京大学工学部電子工学科卒業。電子技術総合研究所入所。現在電子計算機部計算機方式研究室勤務。計算機アーキテクチャ特に並列処理システム、高級言語計算機などの研究に従事。データフロー計算機や関数型言語に興味を持つ。電子通信学会会員。



元吉 文男 (正会員)

昭和26年生。昭和49年東京大学理学部物理学科卒業。昭和51年同大学院理学系研究科物理学専攻修士課程修了。同年電子技術総合研究所入所。現在に至る。記号処理、なかでも数式処理に興味をもっている。また LISP マシンの作成にも関心がある。



登家 正夫 (正会員)

昭和 10 年生. 昭和 34 年東京工業大学工学部卒業. 同年, 日本電気(株)入社. 自動制御系の研究, オペレーティングシステムの開発等に従事.

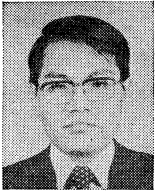
現在, 基本ソフトウェア開発本部第一開発部長.



鈴木 泰次 (正会員)

昭和 16 年生. 昭和 40 年横浜市立大学数学科卒業. 各種中大型計算機のオペレーティングシステムの開発に従事. 現在, 基本ソフトウェア開

発本部第一開発部主任.

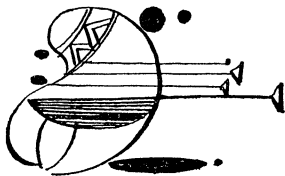


辻 雄介

昭和 15 年生. 昭和 38 年大阪大学工学部電子工学科卒業. 同年, 日本電気(株)入社. NEAC シリーズ 2200 各種 COBOL, 日本語コボル設計・

開発, ACOS-4, ACOS-4/MVP 制御プログラムの設計・開発に従事. 現在, 基本ソフトウェア開発本部第一開発技術課長.

## 研究会報告



### ◇ 第 8 回 計算機システムの解析と制御研究会

{昭和 55 年 2 月 21 日(木), 於 機械振興会館 地下 3 階 1 号室, 出席者 25 名}

#### (1) データフロー計算機の制御と評価

鈴木達郎, 元岡 達(東大・工)

##### [内容梗概]

本論文はデータフロー計算機の制御方法や特徴意義などについて説明し, また著者らの研究室で作製したデータフロー計算機 (TOPSTAR) での実装経験や GPSS によるシミュレーションを通じて, 果してデータフロー計算機がこれからの計算機としてもものなるかどうかの議論の材料を提供した. 現在 TOPSTAR には, データ駆動型と要求駆動型の 2 つのシステムがあり, 前者には制限のレベルを変えた 2 つのシステムプログラムを実装し, 後者には関数型言語として pure

Lisp を実装して, 各々各種の可能性について検討した. また具体的な応用例もいくつか実装中であり, シミュレーションによる評価も行っている.

(計算機システムの解析と制御研資料 80-8)

#### (2) オペレーティング・システム核のファームウェア化とその評価

上林憲行, 小川名裕之, 長山和弘, 相磯秀夫  
(慶大・工)

##### [内容梗概]

本論文はオペレーティング・システム (OS) の観点からの高水準計算機アーキテクチャの研究成果をまとめたものである. まず OS の機能階層や構造の考察から, OS 核 (OS の中枢機能の集合体) の概念について着目し, その特質を明らかにした. さらに実際に OS 核 (HEART) の設計を行いその実現性を立証した. また抽象マシンである HEART の機能や構造の特徴を基本命令と核データベースの説明を通して明らかにした. 次いで PFU-1500 上に作成した HEART のファームウェア化実験システムの概要を述べた. ファームウェア化の評価を行う目的で, ソフトウェア (機械語命令) で実現した場合と比較を行い, 小規模 (全ステップ約 2.5 k step) ながら高い抽象マシンが実現可能で, 約 1/3~1/6 倍の高速化が図られることが確認された.

(計算機システムの解析と制御研資料 80-8)

### (3) TSS 使用形態と大容量主記憶を有効利用するデマンド・スワッピング方式の解析

吉澤康文, 木下俊之(日立・システム研)

#### [内容梗概]

大規模な TSS を実現する際、会話処理に伴うスワッピングの多発がシステム・ボトルネックになると予想される。そこで、会話処理の完了直後にユーザ領域をスワップアウトせずに主記憶に蓄え、他ユーザのスワップインに必要な領域が不足したときだけスワップアウトを行うデマンド・スワップ方式を提案した。この結果、次の入力を行ったとき、そのユーザ領域が主記憶に存在する可能性が生まれ、スワッピング操作が削減される効果が出る。この際、スワップアウトすべき領域の選択法が重要となり、5つのアルゴリズム(LRU, RAND, LUFO, PRED, SLRU)を提案した。この効果を評価し、ユーザの使用形態と各アルゴリズムとの関係を明らかにした。

(計算機システムの解析と制御研資料 80-8)

## ◇ 第4回 分散処理システム研究会

{昭和55年2月14日(木), 於機械振興会館6階65号室, 出席者30名}

### (1) 分散形データフロー計算機 D<sup>3</sup>C の構成と評価

浅田邦博(東大・工)

#### [内容梗概]

本報告は、先に提案した(情報処理学会分散処理システム研究会資料 1-4)データフロー計算機における故障検出機能を実現するための、分散形データフロー計算機 D<sup>3</sup>C に関する設計方針、システム構成の実際、性能測定結果等について述べたものである。本システムは、手続き、またはそれ以上の中高レベルの処理単位を用いたデータフロー計算機であり、マイクロプロセッサより構成された汎用演算装置と、データ駆動制御を司る結合制御装置の対から成るデータフロー計算機ユニットを、高速の DLCN ループネットワークで接続した分散形構成をとっている。性能測定結果から、本装置の汎用演算装置と結合制御装置とは良くバランスしていることがわかる。

(分散処理システム研資料 80-4)

### (2) T-NET の IMP に関する一考察

東 充宏(筑波大)

#### [内容梗概]

実験計算機ネットワーク T-NET のプロトコル体系

を明確にし、IMP に関する処理能力測定について述べた。さらに T-NET の半 2 重通信方式に関して理論的解析を行い、実測値と比較、検討し解析結果の妥当性を示した。また最適バケット長に関する理論的考察を行った。結果の厳密化を測るために、拡張モデルを設定し、IMP の最大処理能力、最適バケット長、バケットの再送確率およびシステム・ダウン率も理論的に求めそれらについて示した。

(分散処理システム研資料 80-4)

### (3) ウインド方式を用いたフロー制御の評価

松尾一紀(KDD 研究所)

#### [内容梗概]

バケット交換網プロトコル X.25, X.75 では、ウインドウ方式を用いたフロー制御がなされる。しかしながら end-to-end 方式と link-by-link 方式とが網によって混在しておりスループット特性が異っている。本論文では、end-to-end 方式では端末間のすべての遅延要素の和からスループットは求められ、link-by-link 方式ではいくつかのリンクの最低のスループット値で全体のスループットが抑えられることを述べ、それぞれについての一般計算式を導き、いくつかのウインドウ数設定例を示した。またデータパケットのモアデータマーク処理がスループットに与える影響についてもふれている。(分散処理システム研資料 80-4)

### (4) HNA における分散処理計算機向け通信管理プログラムの処理方式

古屋正和(日立)

#### [内容梗概]

分散処理計算機には対ホスト通信、対端末通信、分散処理計算機相互の通信等が要求される。本論文は先に発表した HNA (Hitachi Network Architecture) に基づき分散処理計算機に開発した通信管理ソフトウェア HICOP (Hitachi Network Architecture Sub-host Communication Program) の開発思想と以下のインプリメント上の課題について報告した。(1) トランザクション処理に適するソフトウェア構造、(2) 会話型、バッチ型トラフィック共存時のフロー制御とバッファ管理方式、(3) 開発プログラムのプロトコル検証方式。(分散処理システム研資料 80-4)

### (5) オートマトンによるモデル化を用いたプロトコル検証

田中良和(電電・武蔵野通研)

#### [内容梗概]

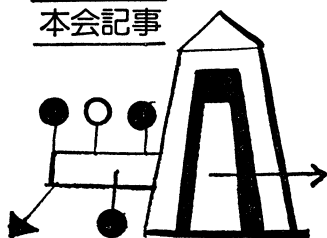
本論文では通信プロトコルの検証に関する一手法を示した。従来多くの通信プロトコル検証手法が報告さ

れているが、それらのほとんどがデッドロックのみを検証の対象としている。本論文では、現在多く使用されているベーシック手順のように、一度に一ブロックしか送信しないプロトコルにしたがって通信する2端末の動作を2台のオートマトンとして定義し、これら

のオートマトンおよび伝送路誤り特性も考慮して合成されるオートマトンで通信システムを記述し、この通信オートマトンの状態遷移図を用いて、デッドロックおよびデータの欠落・重複の判定法を与える。

(分散処理システム研資料 80-4)

## 本会記事



### 第 231 回理事会

日時 昭和55年2月21日(木) 17:30~21:00  
 会場 機械振興会館5階 5S-1号室  
 出席者 小林会長, 高橋副会長, 石井, 木村, 後藤, 近谷, 矢島常務理事, 三浦, 飯村, 川崎, 河野, 澤田, 平澤, 淵, 山本各理事.  
 (事務局) 菅谷事務局長, 坂元局長代理, 田原課長.

#### 議 事

1. 総務関係(木村常務理事, 平澤理事)
  - 1.1 昭和55年1月期に48回(うち規格26回)の会議を開いた。
  - 1.2 昭和55年2月20日(現在)の会員状況  
 正会員 14,069名(前回より291名増)  
 学生会員 442名  
 賛助会員 181社, 288.5口
  - 1.3 昭和55年度第21回通常総会について
    - (1) 総会次第および昭和55年度事業計画を承認した。
    - (2) 昭和55年度役員選挙について立候補者ならびに選挙方法を確認した。
2. 機関誌関係
  - 2.1 会誌「情報処理」(榎本常務理事, 飯村理事)  
 第28回会誌編集委員会報告により, 会誌第21巻3号以降6号まで, 予定通り編集を進めている

旨報告があった。

#### 2.2 論文誌(首藤理事, 川崎理事)

去る2月8日に論文誌編集委員会を開催し, 投稿原稿および査読状況につき検討し, 第21巻2号(3月号)の目次を決定した。また資料に該当する論文の基準について審議した。

#### 2.3 欧文誌(後藤常務理事, 三井理事)

本日午後第30回欧文誌編集委員会を開き, 欧文誌 Vol. 2, No. 4 および Vol. 3, No. 1 を3月末までに発行することを確認し, Vol. 3, No. 3 に20周年記念入賞論文を掲載し IFIP 80 に間に合うよう9月中旬に発行することにした。

#### 3. 事業渉外関係(石井常務理事, 三浦理事, 河野理事, 澤田理事)

##### 3.1 20周年記念事業について

記念事業全体について資料(会誌第21巻2号会告)により, 去る2月19日開催の同実行委員会の決定事項につき説明があり, 了承された。

##### 3.2 第21回全国大会について

前回理事会の時, 講演申込みが少なく心配したが, 最終的には前回より20%増の623件に達し, 本日に論文誌編集委員会の協力をえて, プログラムのセッション割当てを行った。

しかし, 会場費が390万円(前回は35万円), 論文集が20%も厚くなり, 収支のバランスがとれないので参加費を会員1,000円(前回なみ), 非会員2,000円(1,500円), 論文集を予約5,000円(4,500円), 定価6,000円(5,500円), 別刷代1,000円(900円)に改訂することにし, 参加費については全国大会委員会で他学会の事情を参考に決定することとし, これに一任した。

#### 4. 調査研究関係(近谷常務理事, 淵理事)

54年度終了および55年度新設の研究会, 研究委員会につき, 説明があり, 承認された。



5. 国際関係 (矢島常務理事, 山本理事)
- 5.1 IFIP の日本の分担金は 5,600 SF であったが 1981 年から 6,100 SF (8% 値上げ) にして欲しい旨 IFIP 本部から連絡があった。各国の事情も考慮のうえ, 了承した。
- 5.2 第 4 回日米コンピュータ会議について, AFIPS の R. Tanaka 氏から意見が寄せられた。

### 機関誌編集委員会

#### ○第 28 回会誌編集委員会

2月13日(木) 17時30分から機械振興会館64号室で開催された。

(出席者) 飯村理事, 相曾, 井田, 小林, 齊藤(久) 齊藤(信), 志村, 白井, 鈴木, 戸川, 発田, 原田, 吉村各委員

(事務局) 坂元, 山田, 梅本

#### 議 事

- (1) 会誌第 21 巻 4 号「記憶階層」大特集は予定通り発行準備中
- (2) 「イメージプロセッシング」小特集号 (6 号) および「パケット交換」小特集号 (8 号) につき検討した。
- (3) 55 年度会誌編集委員の改選につき報告があった。とくに, 地方会員の研究成果あるいは声を反映させるため, 地方委員を委嘱したい旨, あわせて説明があった。

#### ○第 29 回会誌編集委員会

3月12日(水) 17時30分から機械振興会館64号室で開催された。

(出席者) 榎本常務理事, 飯村理事, 相曾, 井田, 浦野, 鍛冶, 小林, 齊藤(久), 齊藤(信), 志村, 白井, 高井, 田辺, 田村, 戸川, 仲瀬, 中野, 八賀, 発田, 原田, 星, 山本(毅), 山本(昌), 弓場, 吉村(一) 各委員

(事務局) 坂元, 山田,

#### 議 事

- (1) 第 21 巻 5 号「20 周年記念特集号」の原稿ならびに表紙, 目次等の体裁について審議した。
- (2) 会誌についてのアンケートについて検討した。

#### ○第 27 回論文誌編集委員会

2月8日(金) 13時30分より機械振興会館515号室で開催された。

(出席者) 首藤, 川崎各理事, 片山, 名取, 三上, 山下各委員

(事務局) 坂元, 木村, 山田, 渡辺

#### 議 事

- (1) 論文誌第 21 巻 2 号の編集を終え, 発行準備中。
- (2) 投稿論文の査読状況の報告があり, 問題論文についての処理方法につき検討した。
- (3) 査読報告書の内容につき査読期間を含め改訂をすすめている。

#### ○第 30 回欧文誌編集委員会

2月21日(木) 16時30分から17時30分まで, 機械振興会館6階花の間で開催された。

(出席者) 矢島, 大須賀, 伊吹, 三上各委員

(事務局) 坂元, 山田, 梅本

#### 議 事

- (1) 寄稿原稿の査読状況につき検討のうえ, 欧文誌 Vol. 2, No. 4 および Vol. 3, No. 1 の目次と3月末に発行することを確認した。
- (2) Vol. 3, No. 3 は 20 周年記念特集号として, 9 月中に発行し, IFIP 80 に間に合わせるようにしたい。
- (3) 海外の頒布を拡大するため, 価格その他につき意見が出された。

### 各種委員会 (1980 年 2 月 21 日～3 月 20 日)

- 2月21日(木) データベース理論研究委員会 全国大会プログラム委員会 計算機システムの解析と制御研究会
- 2月22日(金) 医療情報学研究連絡会
- 2月25日(月) IFIP 80 展示委員会
- 2月27日(水) 電子装置設計技術研究連絡会
- 2月28日(木) IFIP 80 打合せ
- 3月3日(月) ALGOL 委員会
- 3月4日(火) IFIP 80 打合せ
- 3月10日(月) 医療情報学研究会
- 3月13日(木) データベース理論研究委員会
- 3月17日(月) ソフトウェア工学研究会・研究連絡会
- 3月18日(火) データベース管理システム研究会・研究連絡会 電子装置設計技術研究会 情報処理教育研究委員会

## IFIP 80 実行委員会

20 周年打合せ

- 3月19日(水) 日本文入力法研究委員会  
〔規格関係委員会〕
- 2月21日(木) SC 11・SC 11/WG 3 合同,  
SC 12, SC 16/WG 1, JIS 用語  
(H)
- 2月22日(金) SC 8・9 合同打合せ, SC 15, JIS  
用語 (S)
- 2月25日(月) SC 16/WG 3
- 2月26日(火) SC 3, SC 3/WG, SC 7
- 2月28日(木) SC 16/WG 1, WG 2  
JIS FORTRAN
- 2月29日(金) JIS 用語, JIS 用語 (S), (H)
- 3月3日(月) SC 16/WG 3
- 3月4日(火) TC 95/TC 97 合同
- 3月6日(木) SC 16/WG 1, JIS 用語
- 3月10日(月) SC 7, SC 16
- 3月11日(火) SC 10
- 3月12日(水) JIS FORTRAN
- 3月13日(木) JIS 用語, JIS 用語 (H)
- 3月17日(月) SC 16/WG 3
- 3月18日(火) SC 6, SC 11/WG 3, JIS 用語
- 3月19日(水) SC 15, JIS 用語

《 国 内 》

## 入 会 者

昭和55年3月の理事会で入会を承認された方々は  
次のとおりです(会員番号順, 敬称略).

【正会員】萩原洋一, 松本裕治, 林 典彦, 江渡慎三,

清水和哉, 阿曾弘具, 福島又一, 佐藤倫子, 荘島二郎,  
田村俊夫, 横井時信, 木下順隆, 唯野安志, 中沢義和,  
伊藤陽一, 伊藤航治, 小坂克典, 新開慶武, 広内哲夫,  
真木世之, 久保田一成, 井上浩一, 須田宏一, 村井弘  
之, 青山明彦, 武藤武敏, 田村好博, 越智正昭

(以上 28 名)

【学生会員】池田政弘, 小林信裕, 阿部和利, 巽 久  
行, 高橋常悦, 天野 誠, 菅野昌博(以上 7 名)

## 採 録 原 稿

昭和55年2月の論文誌編集委員会 で採録された論  
文およびショートノートは次のとおりです(カッコ内  
は寄稿年月日).

- ▷山下英生, 中前平八郎: 有限要素解析のための三角  
形要素自動作成の一方法 (54. 5. 31)
- ▷絹川博之, 木村睦子: 日本語文構造解析による自動  
インデクシング方式 (54. 9. 5)
- ▷神谷芳樹, 北川愛子, 仲谷 元, 吉田 清, 藤田晨  
二: プログラム・シミュレータ用ハードウェア記述  
言語 (54. 5. 21)
- ▷平松敏祐, 福村晃夫: 網構造で表現される因果関係  
の動的解析システム NESSY-III (54. 6. 28)
- ▷大槻設乎, 竹内 章, 古川由美子: BOOKE による  
教材の作成・管理・運用 (54. 10. 22)
- ▷前島英雄, 松本秀和, 大沼邦彦, 喜田祐三: 制御用  
16 ビットマイクロコンピュータのアーキテクチャ  
(54. 10. 9)
- ショートノート
- ▷佐藤幸平: Hally 法による複素数の累乗根の計算に  
ついて (54. 11. 26)

## 昭和54年度役員

会 長 小林宏治  
 副 会 長 坂井利之 高橋 茂  
 常 務 理 事 石井善昭 榎本 肇 木村 豊  
 後藤英一 近谷英昭 矢島脩三  
 理 事 首藤 勝 三浦大亮 飯村二郎  
 川崎 淳 河野隆一 澤田正方  
 平澤誠啓 淵 一博 三井信雄  
 山本欣子  
 監 事 関口良雅 蔵田 昭  
 関西支部長 萩原 宏  
 東北支部長 佐藤利三郎

## 会誌編集委員会

担当常務理事 榎本 肇  
 担 当 理 事 飯村二郎  
 委 員 (基礎理論分野)  
 志村正道 吉村一馬 小林光夫  
 白井良明 関本彰次 竹内郁雄  
 田村浩一郎 戸川隼人 星 守  
 渡辺隼郎  
 (ソフトウェア分野)  
 原田賢一 弓場敏嗣 石原誠一郎  
 木下 恂 倉持矩忠 齊藤信男  
 坂倉正純 椎野 努 杉本正勝  
 武市正人 西原清一 真汐雅彦

山崎晴明

(ハードウェア分野)

発田 弘 斎藤久太 井田哲雄  
 浦野義頼 鍛冶勝三 高井 啓  
 田中英彦 仲瀬 熙 中野 治  
 山本昌弘 横井俊夫

(アプリケーション分野)

鈴木久子 池田嘉彦 相曾益雄  
 海老沢成享 小柳 滋 田辺茂人  
 富田正夫 八賀 明 山本毅雄  
 吉村彰芳

## 論文誌編集委員会

担 当 理 事 首藤 勝 川崎 淳  
 委 員 内田俊一 片山卓也 鶴保征城  
 名取 亮 三上 徹 山下真一郎  
 米澤明憲

## 文献ニュース小委員会

委 員 長 小林光夫  
 副 委 員 長 吉村一馬  
 委 員 秋山 登 岩田茂樹 梅村 護  
 加藤重信 杉原厚吉 寺沢晴夫  
 徳田雄洋 中村 孝 中山信行  
 西垣 通 西村和夫 長谷川洋  
 日比野靖 松尾一紀 毛利友治  
 横山晶一 吉田 浩 吉野義行